

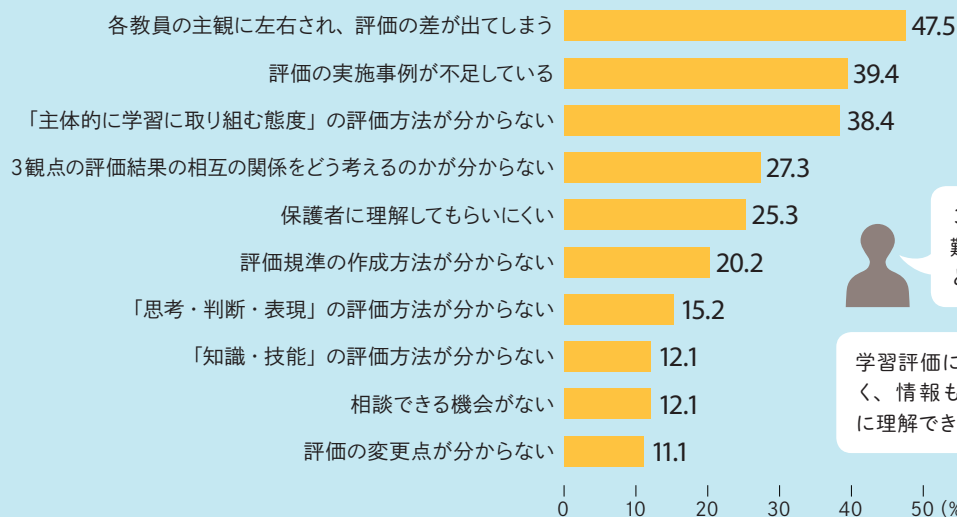
特集

学習評価 最前線

——子どもが次の学習に向かえる評価を目指して

学習評価は、教員の指導改善や子どもの学習改善を図るために重要な役割を担うが、新学習指導要領において、観点別学習状況の評価が3観点となったことで、教育委員会や学校現場から様々な戸惑いの声が聞かれている。子どもが自らの学習を振り返り、学習に前向きに取り組めるような学習評価とするためには、どのような考え方、方法で実践していけばよいのか。学習評価の考え方や方法に関して、全国各地の研修会で講師を務める識者へのインタビューと、評価規準を用いて3観点の評価を実践する3つの事例から考える。

教育委員会や学校が抱く学習評価に関する課題（複数回答）



学年団が3人以上になると、教員間の指導力の差も大きく、判断基準のすり合わせが難しい。

3観点の評価規準の作成が難しい。観点ごとの評価もどう総括すればよいのか。

学習評価に関する研修がなく、情報も乏しくて、十分に理解できていない。

* 本誌読者モニターへのアンケート結果より（2021年5～6月にウェブで実施。有効回答数99）。